

成人向

# 蜜月

みづぎつ



ア 挨拶

この度は壬壬ンガ倶楽部発行「蜜月」をお買い求め頂きありがとうございます  
でございます

作中に出てきます「人物名・公共機関名」等実在の物とは何ら関係  
がございません、また作中にあります「言葉の表現」についても政治的な意図は無く一切関わりがございません。

目次	P2
日直の仕事	P3
おまけ	P37
後書き	P38



# 日直の仕事



西暦2028年、世界の人口は増加の一途をたどり予想を遙かに超え90億を超えてしまった。世界は過密状態になり食糧難に…

その年、新種のウイルスによりインフルエンザが世界的に流行し、抵抗力の弱い5歳未満の乳幼児・70歳以上の老人が発症しワクチンもなく次々と死滅していった…

世界人口の3割ほどが死滅…日本も言うに及ばず国民が3千万人ほど死亡。

翌年新種のウイルスに対抗できるワクチンが開発され人口減少に歯止めがかかった。政府は危機的状況を憂慮し政策として、国民において婚姻関係を持つ夫婦・家庭での「産めや増やせ法令」を発布・施行した。

子供を作った夫婦・家庭には一人につき報奨金として200万円とその年の税金一切の免除を与えた。その甲斐あって人口は徐々に回復していった。

8年後…10歳以下の子供の数が爆発的に増加

人口の5割強にまで達してしまった。その結果新たな問題が発生…教育問題に発展していった。子供の数に対して■学校が少なく、新設も間に合わず現存の学校に詰め込んだあげく一学年20クラス・一学級70人となり、一教師が二クラスの担任を受け持つという漫然たる状況になってしまった。一教師が140人ほどの■の監督などとうてい出来るはずもなく学級崩壊へと繋がってしまい、現場教師はノイローゼになり教職を退く者が続出、更に悪循環になってしまった。

教育庁は自体の更なる悪化を抑えるべく政府に働きかけ前代未聞の特別法を施行させた。教育庁は各■学校にこれを通達遵守させ教育改革を行うのであった。

教育改革法…■学校は教育に性教育を取り入れ学識及び実技を実習させる

特別法…教師特別待遇特区、教師は勤務する学校においてその激務に対し特別報奨を与える

教師に対する慰安婦制度の実施…学校側は勤務する教師への報奨として週に一度生徒の中から選出し教師と生徒の性教育の実技を実習させることとする。

慰安婦となる生徒には中学から大学までの受験の免除・学費の免除、更に教育費として一人500万円が国から支給されるものとする。

慰安婦となる生徒の選出方法は各学校において取り決めるものとする(ただし、これにおいては生徒の意思も尊重され行為への参加は自由)

この法令が実施され教職に復帰する者、教職を目指す者が増えていった。



とある■等科のある学園での話

この学園も特別法令を遵守している  
ある日の早朝、日直で慰安婦に選出された  
指村莉緒

3Fの教室には何かわず半地下にある  
「特別用務室」へと何かう

特別用務室とはこの学園において  
慰安実務をこなす部屋である

各部屋毎に防音設備が施されており  
準備室と本室の二部屋の構造になっている

教師と生徒は準備室にてその日の  
実技プランを話し合うのである

実技の内容は教師に一任され方法は  
教師の趣味や趣向が反映されかなり  
過激な行為まで容認されている

慰安婦となる生徒は参加する以上途中での  
棄権は出来ず教師からの要望は受け入れ  
なければならない。



『おは…ようこそございます』

『あつ…お早う…今日は君かな…?』

『…はい、八組の指村莉緒です…今日はよろしくお願いします』  
『うん、よろしくね…君とは初めてだね』

『あつ…はい』

『君は…今日で何回くらいなの?』

『えつ…えーと…10かい…です』

『へえ…結構豊富なんだね、君はどっちも使えるの?』

『あ……はい、一応』

『ビールは飲んできたね?』

『…はい』

『じゃあ…これからやってもらおうかな』

教師は莉緒をイスに座らせると股間の逸物を眼前へと晒し出す

莉緒は恥じらいながらも躊躇無く手でしごきながら口の中に  
ほおぼった。

『なかなか上手いじゃないか…よく勉強してるね』

『家でもお母さんに特訓やらされています』

『家族で取り組んでるなんて素晴らしいね』

『じゃあ…スカートを脱いで車室へ移動しようか』

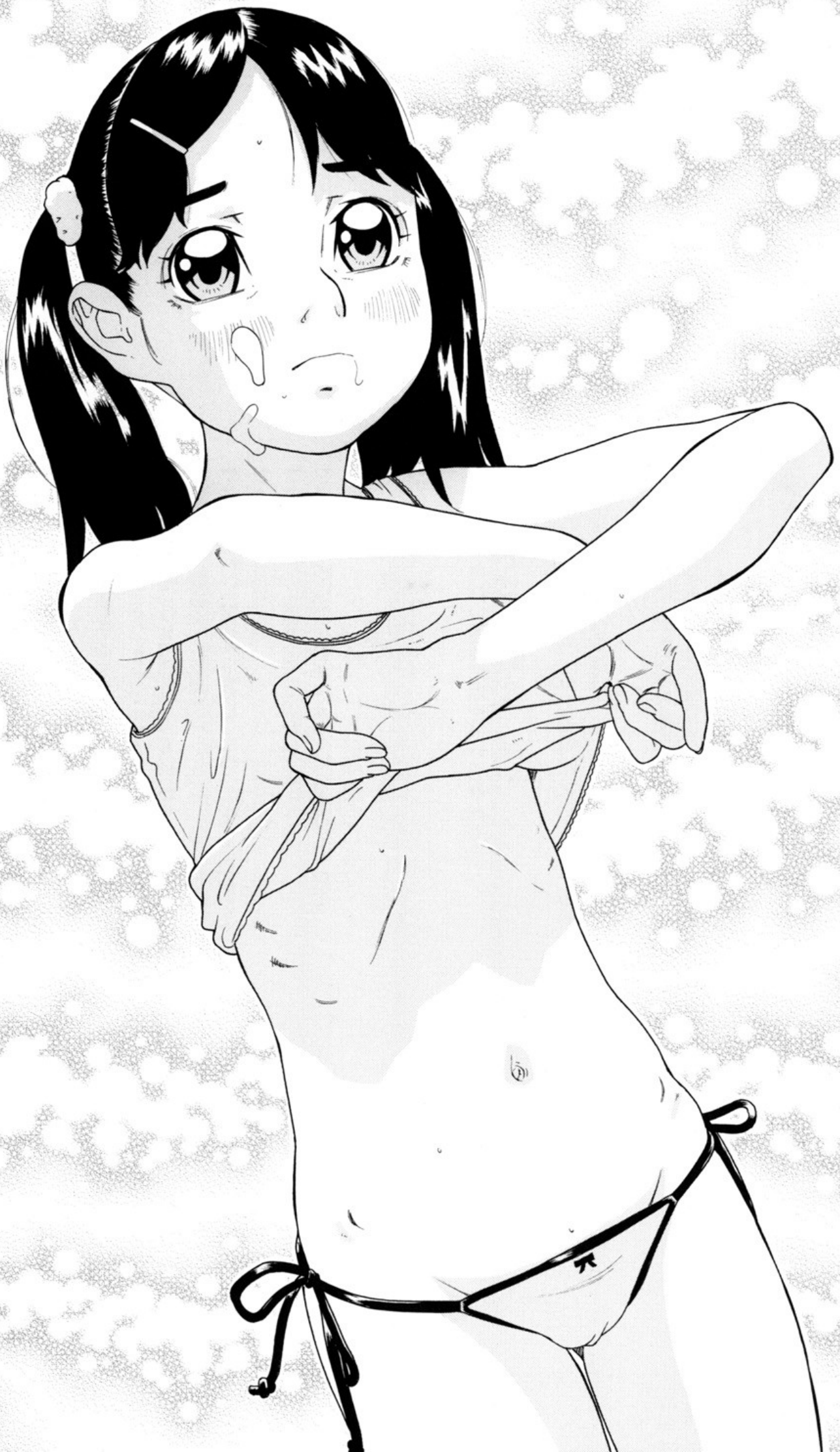
『…はい』











教師は更に服を脱がせる

『ずいふんとセクシーな下着してるんだね』

『あつはい、前に服を脱がさないでそのままパンツだけ脱がされたことがあつて…お母さんが脱ぎやすいこれにしなさいって…』

『あははは、そうか…もしかして吉組の武田君かな』

『えっ…知ってるんですか…』

『武田君は着衣性交の趣味だつて前にね…』

『先生は…普通…ですか？』

『うーん、何が普通かは判らないが、先生も普通だよ』

『…よかった』

『…よかった？何かあつたのかい？』

『うわさて聞いたんですけど…エスエムて一日中縛られてオモチャで責められたつて子がいるつて…』

もしその先生だつたらつて思つて…』

『先生は縛つたりはしないよ』

『…はい』

『君たちのきれいな肌を傷をつけるなんて…』

そんなことは出来ないよ』

『よし、それじゃあ布団の上で両足を抱えて…あそこを開いて見せてくれるかい』

『…どうですか？』

『君たちの素晴らしい身体の隅々までよく見せてもらおう』

『白く透き通つた張りのある皮膚…手に収まるツンと上を向いた乳房…経験済みとは思えないほど綺麗に揃つた陰芯…指を入れれば吸い付いてくる膣…』

『早速味見といこうじゃないか…挿れるよ』

『…はい…』













「おっ、おおお……なかなかきつくて絡みついてくる……うっ」

「あっ……ああああ……先生の……おおきいです……」

「身体が小さいからさすがに全部は入らないが……一番奥まで届いてるのが判るかな？」

「あっ……はい……届いてます……あっ……あふっ……あっ」

「おおおっどうだい……」を突き上げるとふわっとするだろ」

「あっ……へん……てす、変な感じが……ああああ……くるしい……」

「うっうっそろそろ先生出そうだよ……最初は……のまま出すよっ……」

「あっ……ああっ……」











教師は莉緒の腔内に勢いよく射精した

莉緒の小さな子宮は大量の精液で満たされた

濃いピンク色に染まった腔壁を指で抵げると乳白色の精液が

子宮の奥からトロ〜つと陰部に沿って流れ落ちた

『先生気持ちよくて君の中いっぱい出しちゃったよ』

『はあはあ…わ、わたしも…きもちよかったです…はあはあ…』

莉緒は教師の激しい突きに少し腰砕けになっていた

憔悴したかのように寝そべったまま腔から流れ出る精液が太ももを

伝わるのを感じていた。

教師は一行が終わると一服するため準備室へと向かう

『先生ちよつとたばこ吸ってくるから君は休んでいなさい』

『は…はい…』

『戻ってきたら…第2ラウンド開始だよ…いいね』

『…はい…』

セックスは普通だけとあんなに激しいと次は壊れちゃう…

今日はあと何回されるんだろう…莉緒は教師が戻るまで

そんなことを考えていた。

そして教師が戻ってきた、小さなカバンを抱えて…

教師はカバンを開けると中から何かの器具を取りだし莉緒に見せた

莉緒にはそれがなんに使う物かすぐに判った

『さて、これは知ってるかな？』

莉緒は小さくうなずいた

『これは沈陽をする器具だね、君はお尻も経験してると言うことだから  
使い方は知ってるね…では四つん這いでお尻を向けなさい』





莉緒は浣腸しやすいようにお尻を持ち上げる

教師はかなり太めの注射器に牛乳で薄めた浣腸液を大量に入れ

莉緒の腸内へと流し込む

初めてではないにしても大量の浣腸液を流し込まれ苦痛に顔が歪む

『ううう…先生…もう入らないです…やっやめて…出ちやうよ』

『まだまだ、ガマンしなさい…半分も入れてないぞ』

『先生…むりです…むりむりっ…おなかが痛いよ』

教師は莉緒の言葉を無視し次から次へと流し込む

3リットルを超えた辺りて莉緒の下腹は浣腸液でポコンと膨れて

妊婦のような状態になっていた

『せんせい…苦しいよ…出ちやうよ…おトイレに行きたいです』

教師はバッグから新たな器具を取り出し莉緒の肛門へ挿入した

『これをつけておけばしばらくは漏れ出さないから、外さないようにね』

『ううう…』

『先生は浣腸が好きじゃなくてね…実は妊婦が好きなんだ…』

それも少女が妊婦になった姿がね』

『…』

『でも、少女を妊娠させることは出来ないからね、疑似だけど今日は』

君になつてもらおうと思つてたんだよ』

『…うう…』

『素晴らしいよ、お腹の張り具合が…先生興奮してきたよ』

莉緒の姿に興奮した教師は逸物をギンギンに反りかえさせ口の中に押し込み  
激しくピストンさせる

『おおおっ…す…いなく妊婦にフェエチオしてもらうとこんな感じかな』

そして腔に押し込み再び激しく腰を動かす

『せつ…先生…お腹痛いです…そんなに激しくしたら出ちやいます…あつ』





『あつ…先生…もうだめです、せ…栓が取れちゃいます…あつ…くるしい』

『もう少しだから…ガマンしなさい…おおつ…』

『だめだめ…おトイレ行きたいよ…』

『仕方ないね…じゃあ栓を一度抜くけど出しちゃダメだよ、いいかい？』

『えつ？…は…いい』

『栓が抜けそうじゃ仕方ない、もう少し太い物でフタをしよう』

『えつ？…えつ？』

教師はそう言うときと膝から逸物を抜き、肛門の栓を抜きすぐさま肛門の中へと  
振り返った逸物を押し込んだ

『ひくつ…い…痛い…せんせ…い…やめて』

『おおおつ…これはすごいぞ、中の液体が絡んてくる』

『いやだ…いたつ…や…め…て…出るよ』

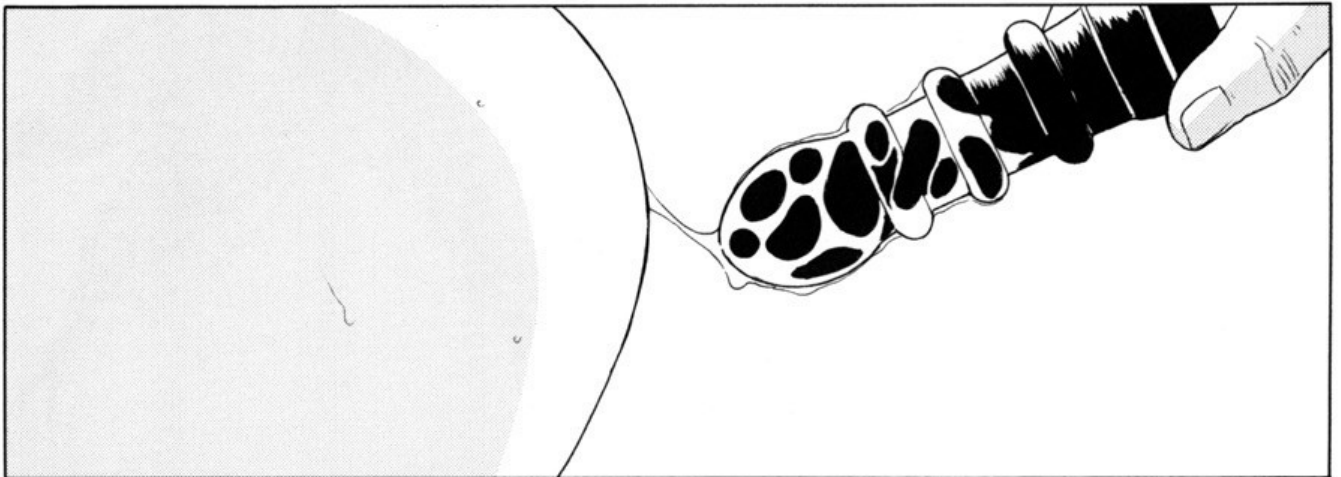
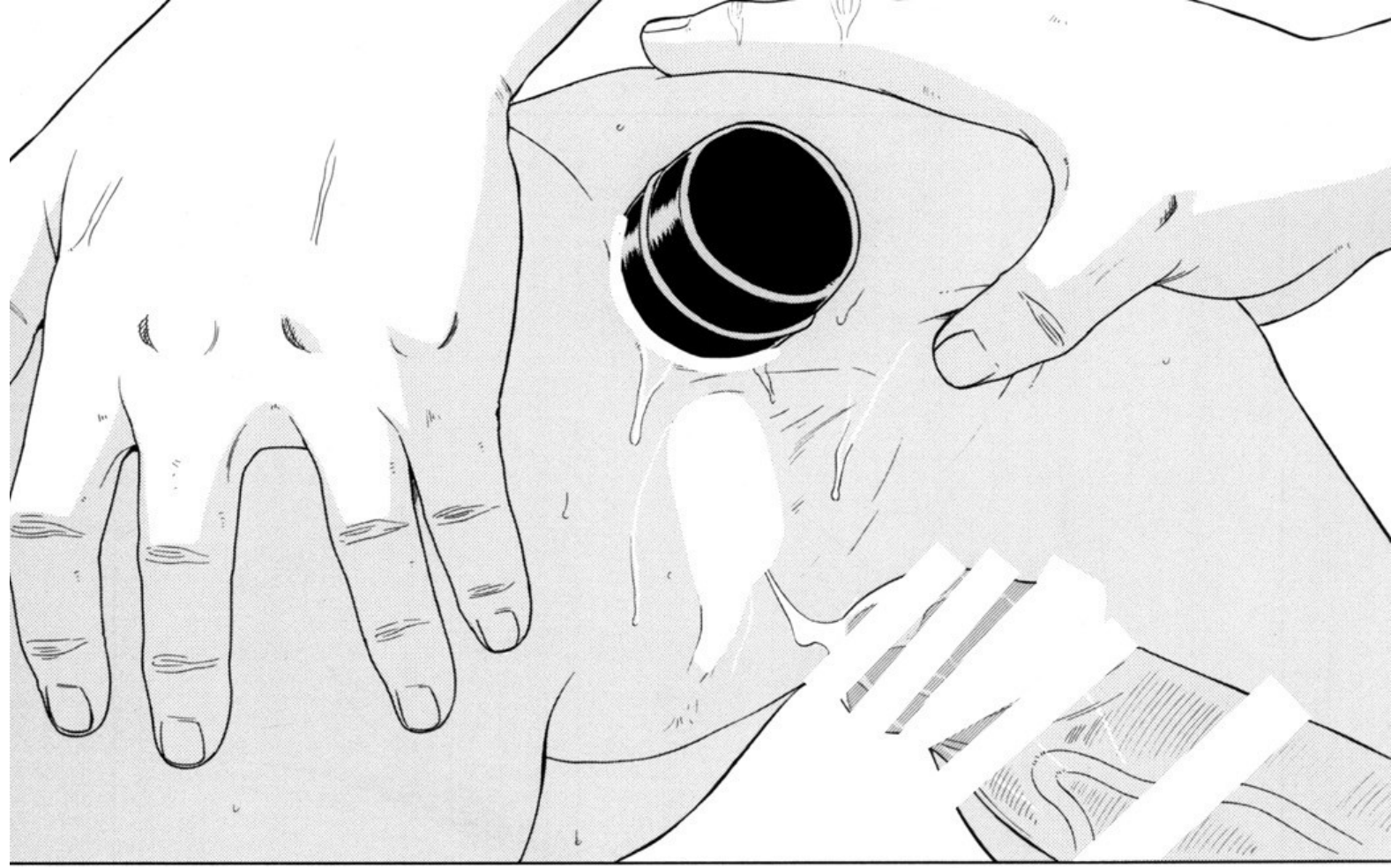
『くあつ…先生もイクぞ…イクぞ…』

『あ…つ…あ…つ…やめ…て…』

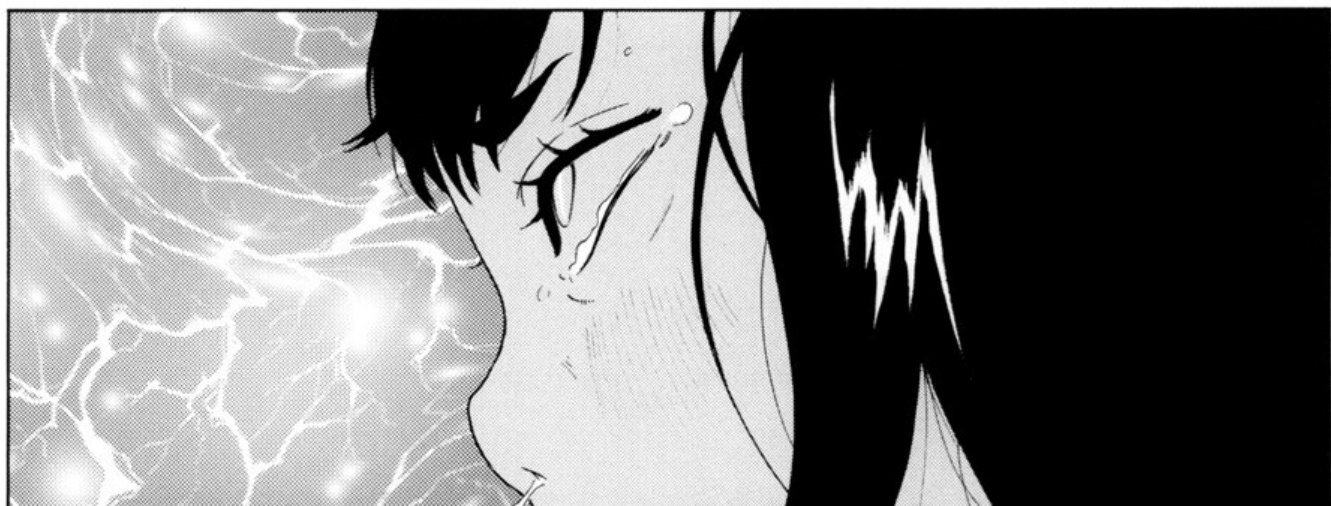
教師は立ちバツクのまま莉緒の肛門内に激しく射精した

莉緒は激しいピストンと浣腸液の苦痛さでなれば失神状態にあった









教師が逸物を振くと同時に大量の流腸液が噴射した…

『うわっ…ガマンしなさいって言ったてしよ…』

莉緒は中身を一滴残らず噴射し、力尽きその場にへたり込む

『…ごめん…なさい…ガマンできなくて…うわああああ…』

莉緒は突然泣き出してしまった、苦しさで聊すかしさといろいろな感情が入り交じり緊張の糸が切れてしまったようだ

『うわああああ…ごめんなさい…ごめんなさい…うわーん』

『あー、いやいや良いんだよ、先生こそひどいことしちゃつてすまないな…』

『ひつく…ひつく…』

『君は悪くないから…ね、泣かなくて良いんだよ』

莉緒は泣きべそをかきつつうなずいた

そのあと教師は莉緒と二人で室内を掃除しその日の実技を終えた

莉緒は去り際に教師に挨拶をした

『先生…今日はありがとうございました』

『こちらこそありがとうね』

『あの…優しくしてくれたら今度も…妊娠してもいいですよ』

『えっ…』

『お腹痛かったけど…すこかったから……じゃっ、さよならーっ！』

『あっ、うん、さよ…なら』

こんな学校…あつたらすこいよね(笑)



## あとがき

最近・・・ちょっと前の話、家のHDD・DVDレコーダーが壊れてしまいました。急遽量販店に見に行ったのですがDVDレコーダーが無い！ほぼBDレコーダーに変わっていました。価格帯は安いものから高級品まで・・・あれこれ考えながら20分ほど、その日の特価品を見つけ価格と性能で買ってきました(出費が痛い!)帰宅後すぐに設置、なんと今まで視聴できなかったテレビ埼玉が受信でき、もちろん録画も！録画量が一気に増えてしまいました。今までは見ることが出来なかった作品が見られるようになりました。再放送の昔のアニメ番組とか。中でも「まいっちんぐマチコ先生」は懐かしくエロくて「良い作品だ～」などと感心して見ます。マチコ先生の青年誌版の漫画単行本を買ってみました、キャラクターはかなりふくよかになってましたが少年誌では描けなかったことがさすが青年誌！でしたね。そう言えば何年か前とある同人イベントで作者のえびはら武司さんを見かけました、コミケにも参加してるんでしょうかね。次回は夏でしょうか、またお会いしましょう！

## おくづけ

タイトル	蜜月
発行年月日	2012年12月31日
発行	モモンガ倶楽部
制作著作	林原ひかり
サークル連絡先	okosama@par.odn.ne.jp
印刷所	(有)ねこのしっぽ

この作品に収められている全てのイラスト・絵の著作権は林原ひかり及びモモンガ倶楽部が所有しています。著作権者に無断で本作品の転載・コピー・改変・データ化しWEB等での公開及び第三者へ営利目的の有無を問わず転売する行為を全て固く禁じます。本作品は成人向けを主張し販売しているため未成年者への販売は許可していません、閲覧も同様に禁止しています。WEB上にあるサイトで林原ひかりの作品をバナー等に無断使用している海外サイトがありますが著作者は利用許可を出していません、また著作者と一切関係はありませんので閲覧に際して問題が起きても当方には責務がありませんのでご承知ください。

